

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山の地域部会編 vol.6



発行日：平成27年2月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第6回山の地域部会を開催しました！

1月29日（木曜日）に第6回山の地域部会が豊田市役所東庁舎にて開催されました。今回の地域部会では、「平成26年度の山部会の活動報告」、「来年度の活動計画について」、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。また、会議の後に栗原光二氏、青木良篤氏から話題提供がありました。



日時：平成27年1月29日（木）13時00分～17時10分
場所：豊田市役所 東庁舎 東52会議室
参加者：35名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 今年度の山部会の活動進捗報告



今年度の山部会の活動進捗の報告が行われました。今年度は全8回のWGを実施し、「山村再生担い手づくり事例集」、「山村ミーティング」、「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」の4つの分野について話し合ってきました。その内容について、会議の中で確認し、来年度行っていく活動についてのアイデアなどもいただきました。主な意見は裏面をご覧ください。



2. 来年度の活動計画について



今年度の山部会の活動進捗の報告が行われました。主な意見は裏面をご覧ください。

◆山村再生担い手づくり事例集について

今年度同様に主に山村を対象に事例集を作成します。また、取材先同士の出会いの場を創出することを目的に、出版記念交流会などの企画を考えていくこととなりました。

◆山村ミーティングについて

Clear Water Projectと愛知・川の会の共催講演会など、山村再生ミーティングが目指している既存の取り組みを参考に、具体的な企画を考えていくこととなりました。

◆森づくりガイドラインについて

ガイドラインのイメージ案をメンバーで共有し、今後の情報収集方法として懇談会から行政に向けた正式な文書の作成を検討し、来年度、具体的に進めていく事となりました。

◆木づかいガイドラインについて

森づくりガイドライン同様、懇談会から行政に向けた依頼文書作成を検討し、今年度同様に進め、山部会WGの他の取組みと重なる部分は一緒に実施することとなりました。

◆来年度のWGの進め方について

今年度同様、各地域2回（内1回は宿泊を予定）訪れ、参加者を広く集い開催していくこととなりました。



3. 話題提供 1 栗原光二氏 （フォレストベンチ研究会）



フォレストベンチ研究会の栗原光二氏にダム堆砂湖岸積み上げと間伐材の利用について話題提供を頂きました。土砂問題と木づかいに関する先進的取り組みです。



4. 話題提供 2 青木良篤氏 （木曽川流域木と水の循環システム協議会）



木曽川流域木と水の循環システム協議会の青木良篤氏に、木曽川流域木と水の循環システム協議会の目的と方法について話題提供を頂きました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 > 回答)

●今年度の山部会の活動成果報告

今年度の山部会の活動成果報告について、みなさんから出された意見は以下の通りです。

- ・流域圏3県への様々な依頼は懇談会として正式に依頼するための文書があるといい。(今村)
- ・事業を戦略的に進めていくための財源を確保していく必要性を感じる。(今村)
- ・流域圏懇談会の存在を知ってもらうためのホームページやパンフレットがあるとよい。(蔵治)
 - 他の様々な会議で流域圏懇談会の取り組みのPRに努めており引き続き行っていく。(西原)
- ・事例集の存在を知ってもらうための手段を考える時期にきていると感じる。(蔵治)
 - 昨年度は事例集を作成した旨を記者投げ込みした。できることから進めていきたい。(西原)
 - 事例集は3年行い完了した際には独自のホームページを立ち上げられるといい。PRのためのホームページ作成に対して予算等の措置を考えてほしい。(洲崎)
- ・Clear Water Project と愛知・川の会の共催講演会など、山村再生ミーティングが目指している取り組みがあるので、流域圏懇談会でも参考にできるとよい。(山本)



●来年度の活動計画について

来年度の活動計画について、みなさんから出された意見は以下の通りです。

- ・担い手事例集は取材先同士が知り合うことが重要。そのための機会として、来年度は、出版記念交流会などやれるといい。流域全体で友達関係を築くことが大切と感じる。(山本)
- ・スギダラキャラバンは、各地の他イベントや色々な地域の緑地・公園でできると面白い。森づくりガイドラインとも重なる部分は一緒にやっているといい(今村)
- ・来年度の山村再生担い手づくり事例集は、対象を川・海の団体を含めて流域再生をテーマにすることがよいかご意見を聞きたい。(洲崎)
 - これまでの取材先団体等を地図に示し地域的な偏在を確認することが重要。来年度は今まで取材に訪れていない山村地域も対象にし、流域再生は次々年度でもいい。(蔵治)
 - 来年度はこれまで通り山村の括りで実施しつつ、将来的に流域再生をテーマにした事例集を作成することも想定しながら、川・海の取材先団体も若干増やすことで考える。(洲崎)
 - サブタイトルに、山・川・海の矢作川流域圏でつながる旨の文字を掲載するとよい。(山本)
 - 川・海の団体でキーパーソン・キーとなる団体を抽出できればよい。(近藤)
- ・ガイドライン掲載情報の収集方法には懇談会から行政に向けた正式な文書があるとよい(蔵治)
- ・特徴的な森・人・活動があるのか一目で分かる流域圏の地図があるといい。(今村)
- ・来年度も基本的な活動のやり方としては今年度と同様のやり方で進めていくことについてご意見を聞きたい。(蔵治)
 - 参加者が多く参加できるように機会をもつという意味でも、今年度と同じで問題ないと思う。(洲崎)
 - 今年度同様、各地区を2回訪れて、そのうち1回を宿泊で行うことで多くの人に参加できるように工夫する。(蔵治)



●話題提供 1 栗原光二氏(フォレストベンチ研究会)

○話題提供後に出された主な意見

- ・他地域で土砂災害跡地を見たことがある。ご紹介頂いた工法は矢作川でも使えるか。(松井)
 - この工法は水を通して土砂を留めることが出来るため有効に使えると思う。(栗原)
- ・前面に並んだ間伐材は時間が経過するといずれ腐ってしまうと思うが実際はどうか。(洲崎)
 - 腐っても効果の減少にはつながらない。(栗原)
- ・土は地域の山の土を使用しているのか。森林の生育には支障はないか。(今村)
 - この工法はその場で出てくる土を全て使うため、生育に支障なくごみが出ない点の特徴。工事は全国で20社ぐらいの会社が施工可能。地方の会社が育ってほしい。(栗原)



●話題提供 2 青木良篤氏(木曾川流域木と水の循環システム協議会)

○話題提供後に出された主な意見

- ・木材を土木的に利用することは検討しているか(蔵治)。
 - メンバーに建築関係者が多く、重要な分野と認識しているが検討できずにいる。(青木)
- ・木曾川の取組みで住宅は何棟建てて、原木はどこで仕入れているかお聞きしたい。(鈴木)
 - 毎月約20棟は建てている。生産者は、素材生産業者と製材所との取引になる。(青木)
- ・統一規格であると思うが所有するストックではどれくらいの需要に耐えられるのか。(今村)
 - 国内でも有数のストックを持っている。国産材の流通安定化の使命感でやっている。(青木)
- ・外材は円安で緩和しているなか、流通は行政により仕切られている。突破法はあるか。(筒井)
 - 国産材に追い風が吹いていることは確か。県単位でなく流域で考えることが重要(青木)
- ・豊田市は地域木材の活用を目的に中核製材工場を誘致する。山の雇用・産業に結びつけることによる過疎地問題の解決と生成材の矢作川流域材としてのPRを期待している。原木の供給体制が十分とれていない点が課題。(原田)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

今年度の全体会議は2月24日に開催されます。奮ってご参加下さい。

